◀達成を祝い乾杯する参加者

白神トピックス

『白神ねぎ』販売額12億円突破

ねぎ部会

『白神ねぎ』の販売額が12億円に達し、１月17日に能代市のプラザ都において「12億円販売達成大会」が開催され、過去最高の販売額を祝うとともに、さらなるブランド力向上に努めることを誓い合いました。

大会には、生産者やＪＡ、行政の関係者ら約150人が出席。ねぎ部会の山谷部会長は「昨年度は販売額10億円、今年は皆さんの頑張りで12億円まで伸ばすことができた。次は13億円を目指そう」、佐藤謙悦組合長は昨年度に続いて販売額10億円達成したことなどに触れ「今年の秋には能代市で全国ねぎサミットが開催される。10億円産地として他産地や県内外の消費者から注目されることとなる。これを機に、さらなる知名度の向上と需要に応える量の確保に努めていきたい」とあいさつしました。

１月末実績は、出荷量3,501ｔ、販売額12億4,956万円、１kg当たりの単価357円と、いずれも昨年実績を上回っており、天候不順の影響で他産地の収量減などが要因となっています。担当者は、年度末には販売額13億円を達成できるよう１箱でも多くの出荷を呼びかけました。

管内４地区で支店運営協議会を開催

ＪＡあきた白神

ＪＡでは各支店で支店運営協議会を開催し、管内４地区で総勢65人の参加のもと、支店実績や農業情勢、今後の事業について生産者や地区の代表者と協議しました。

このうち、のしろ東支店では佐藤組合長が「農業を取り巻く環境は不透明で先が見えない状況であり、農政の30年問題もはっきりしていない。しかしながらＪＡとして自己改革にしっかり取り組み、組合員が必要としている事業を進める取り組みが必要」とあいさつ。その後、支店を拠点とした協同活動の計画などについて話し合われ、地域密着活動を通して住民との関係を深めてもらいたいと提言されました。

▲農業情勢や支店の活動について様々な意見が交わされた

▲今後の取り組みなどが協議された

平成30年度までに青果物販売額20億円を

営農企画課

ＪＡあきた白神では、第七次３カ年計画の中で白神青果物販売目標20億円を目指した取り組みを掲げ、初年度となる今年はプロジェクトチームが発足しました。１月25日に開かれた「あきた白神青果物20億円達成プロジェクト会議」では、県や市町、各生産部会長など約25人が参加し、目標達成に向けた課題など活発な意見交換が行われました。

佐藤組合長は「農家が農業で生活できるようになるのが最終目標。そのために農家個々を見つめ直し、その人に合った複合経営を今後進めていきたい。様々な生産部会があるが、販売額20億円という１つの目標に向かって取り組んでいこう」と話しました。